

3.1.6 研究開発ネットワークユニット

研究開発ネットワークユニット長 上野貴弘

研究開発ネットワークをベースにした広範な研究開発

概要

当ユニットは、NICT内で運用する研究開発ネットワークを基盤に、ネットワーク運用者(旧TAO組織)と研究者(旧CRL組織)の連携や交流を通じて、統合の効果を高めるとともに優れたネットワーク技術開発やアプリケーション技術開発を促進することを目的としている。

特にNICTの研究開発ネットワークの中では最大の研究開発テストベッドネットワークJGNⅡを中心としてこれを研究者が利用して種々の研究を進める形で常に連携は拡大してきた。また、ネットワークの運用や外部の研究者(国内のJGNⅡ利用研究者、JGNⅡの接続先である米国、タイ、シンガポールの研究者)との対応についても、総合研究系の研究者とテストベッド推進室が共同の体制を取って運営している。

平成17年度の成果

平成17年度はJGNⅡの利用者が増加するに従ってユニット参加者が増加した。関係する部門も3部門から4部門へと拡大し、これまで以上にユニット内での情報交換が行われた。この結果、JGNⅡにおいて過去のユニット関連プロジェクト13件に加えて、平成17年度に新たに当ユニットの活動によるプロジェクトとして5件が追加され、合計18件となった。

また、7月に開催したNICT研究発表会において、当ユニットの部を設けてJGNⅡリサーチセンターの研究成果と併せて6件の発表を行ったほか、NICT機関誌(季報及びジャーナル)において「研究開発ネットワーク特集」として研究成果をまとめた。

今後の連携の方向としては、当ユニットではネットワーク運用者と各研究者の連携に加えて、リサーチセンターに外部から参加している研究者と総合研究系に所属する各研究者間の交流促進を打ち出している。これにより、研究者・運用者のコミュニティの拡大を期待している。